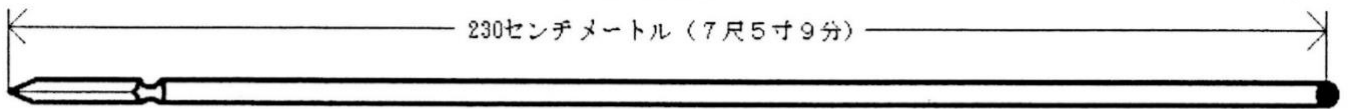


木槍による槍道基本技稽古法

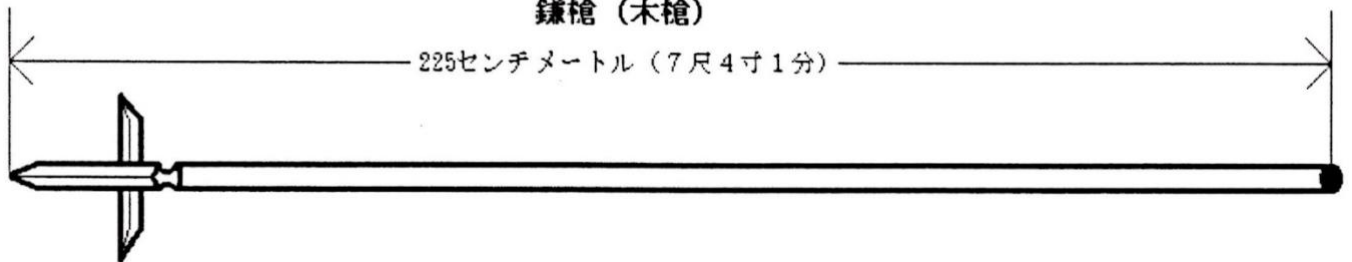
用具の規格

■槍道基本技稽古法と日本槍道形で使用する木槍（タンポ無し）

素槍（木槍）

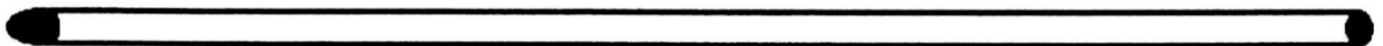


鎌槍（木槍）

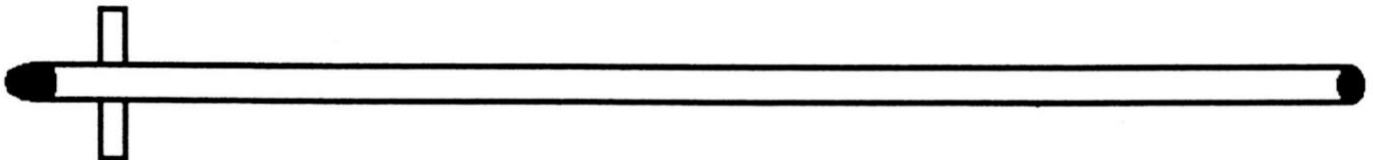


■槍道試合で使用する木槍（タンポ有り）

素槍（木槍）



鎌槍（木槍）



用具の規格

■槍道試合用の木槍

槍道試合用の木槍は槍先にタンポのついたものであること。

槍先にタンポのついていないものは試合で用いることは認めない。

■木槍の基準（素槍の場合）

	性別	中学生	高校生 (相当年齢の者も含む)	大学生、一般
長さ	男女共通	220 センチメートル以内	225 センチメートル以内	230 センチメートル以内
重さ	男性	特に指定無し	特に指定無し	特に指定無し
	女性	軽いものが望ましい	軽いものが望ましい	軽いものが望ましい
太さ	男性	特に指定無し	特に指定無し	特に指定無し
	女性	細いものが望ましい	細いものが望ましい	細いものが望ましい

■木槍の基準（鎌槍の場合）

	性別	鎌槍
長さ	男女共通	225 センチメートル以内
重さ	男性	特に指定無し
	女性	軽いものが望ましい
太さ	男性	特に指定無し
	女性	細いものが望ましい

※鎌槍は両方に鎌のついたもの。

片方にしか鎌のついていないものは認めない。

1. 制定の趣旨

槍道の基本技術を習得させるため、「木槍は和槍」であるとの観念を基とし、木槍を使用して「槍法の原理・理合」「作法の規範」を理解させるとともに、適正な対人的技能を中心に技を精選し指導するものとした。

2. 構成

この解説書で技およびその構成は、次のとおりである。

- 「基本1」 一本突きの技
 - 「正面」「小手」「胴（前胴）」「突き」「足」
- 「基本2」 二・三段の技（連続技）
 - 「小手→面」
- 「基本3」 払い技
 - 「面払い面」
- 「基本4」 撥ね上げ技
 - 「胴（裏胴）撥ね上げ胴」
- 「基本5」 打ち落とし技
 - 「胴（前胴）打ち落とし面」
- 「基本6」 抜き技
 - 「面抜き胴（裏胴）」
- 「基本7」 出ばな技
 - 「出ばな小手」
- 「基本8」 すり込み技
 - 「面すり込み小手」
- 「基本9」 回し技
 - 「回して面」

3. 基本指針

- (1) 所作事は、「日本槍道形」に準拠するものとする。
- (2) 習技者に対し、木槍を使用し槍道を正しく体得させる。
- (3) 使用する木槍は基本的には日本槍道形で用いるものとするが、幼少年にあつては発育段階に応じて適切な木槍を使用する。
- (4) 基本動作については、「幼少年槍道指導要項」に則って指導する。
- (5) 習技は基本的に集団指導によるもので、「元立ち」「掛り手」の呼称は相互に平等の立場で行うという観念から用いた。
- (6) 集団行動を効果的に進めるために、指導者による随時適切な指揮の下に行うこととする。
 - ア. 前記基本技の選別は、指導者が習技者の錬度に合わせ行う。
 - イ. 適宜、指導者の号令を導入するほか、錬度を高めるため「掛り手」だけの要領を繰り返し行う等の具体的内容や進め方について創意工夫を凝らす。

4. 指導上の留意事項

(1) 構え

ア. 構え方はすべて「中段の構え」とする。

「中段の構え」は左足を前に出し、左半身となる。左手は軽く握り、右手は強く握る。
槍先は正中線に置くこととする。

イ. 構えの解き方は、槍先が床に着くか着かないかすれすれの高さにして、正中線に置く。

(2) 目付け

目付けは、相手の顔を中心に全体を見ることとし、ここではお互いに相手の目を見る。

(3) 間合

打突の間合は「一足一槍の間合」とし、この間合は個人の体格、筋力、技倆の程度などにより若干の差があることを指導する。

(4) 打突

ア. 打突は、充実した氣勢で手の内を絞り刃筋正しく、後足の引付を伴って「一拍子」で行わせる。

イ. 打突は、常に打突部位の寸前で止める空間打突となるが、槍で「突く・叩く」という意味を理解させる。

ウ. 「掛け手」の打突動作は、「元立ち」が合気になって与える機会を逃がすことのないよう、的確に捉えて「掛け声」とともに気合いをこめて行わせる。

(5) 足さばき

足さばきは送り足を原則とし「すり足」で行わせる。

(6) 掛け声（発声）

打突時に、「面（メン）、小手（コテ）、胴（ドウ）、突き（ツキ）、足（アシ）」と打突部位の呼称を明確に発生させる。または、（エイ）、（ヤー）の掛け声でもよい。

(7) 残心

打突後は、油断することなく相手に正対し、間合を考慮しながら「中段の構え」となって残心を示される。

木槍による槍道基本技稽古法

基本1 単一技「面、小手、胴、突き、足」

基本2 連続技「小手～面」

基本3 払い技「面払い面」

基本4 撥ね上げ技「胴（裏胴）撥ね上げ胴」

基本5 打ち落とし技「胴（前胴）打ち落とし面」

基本6 抜き技「面抜き胴（裏胴）」

基本7 出ばな技「出ばな小手」

基本8 擦り込み技「面すり込み小手」

基本9 回し技「回して面」

■稽古のポイント

- ・ 刃筋正しく突く。
- ・ 間合に気を付ける。
- ・ 正しい打突部位を正しい打突部で突く。
- ・ 足さばきに気を付ける。
- ・ 適正な姿勢を心掛ける。
- ・ 打突時はしっかり声を出し、充実した氣勢を心掛ける。

基本1 一本突きの技（正面、小手、胴、突き、足）

元立ち	掛かり手
双方左足より歩み足にて三歩前進して一足一槍の間合に接する	
槍先をやや左に開き機会を与える	
	左足を一步踏み出しながら後手を繰り出してメンの掛け声とともに正面を突く
	右足より送り足で一步後退して残心
	さらに数歩後退して一足一槍の間合いになる
構えを戻す	
槍先をやや上に上げ機会を与える	
	左足を一步踏み出しながら小さく振りかぶりコテの掛け声とともに左小手を打つ
	右足より送り足で一步後退して残心
	さらに数歩後退して一足一槍の間合いになる
構えを戻す	
槍先をやや左に開き機会を与える	
	左足を一步踏み出しながら後手を繰り出してドウの掛け声とともに前胴を突く
	右足より送り足で一步後退して残心
	さらに数歩後退して一足一槍の間合いになる
構えを戻す	
槍先をやや左に開き一步後退し機会を与える	
	左足を一步踏み出しながら後手を繰り出してツキの掛け声とともに咽頭部を突く
	右足より送り足で一步後退して残心
	さらに数歩後退して一足一槍の間合いになる
構えを戻しながら一步前進する	

槍先をやや左に開き機会を与える	
	左足を一步踏み出しながら後手を繰り出してアシの掛け声とともに後足を突く
	右足より送り足で一步後退して残心
	さらに数歩後退して一足一槍の間合いになる
構えを戻す	
構えを解き、双方左足から歩み足にて小さく数歩後退して立合の間合いに戻る	

基本2 二・三段の技（小手面）

元立ち	掛かり手
双方左足より歩み足にて三步前進して一足一槍の間合に接する	
槍先をやや上に上げ機会を与える	
	左足を一步踏み出しながら小さく振りかぶりコテの掛け声とともに左小手を打つ
一步後退しながら槍先をやや左に開いて機会を与える	
	左足を一步踏み出しながら後手を繰り出してメンの掛け声とともに正面を突く
	右足より送り足で一步後退して残心
構えを戻す	さらに数歩後退して一足一槍の間合いになる
一步前進して元の位置に戻る	さらに一步後退して元の位置に戻る
構えを解き、双方左足から歩み足にて小さく数歩後退して立合の間合に戻る	

基本 3 払い技（払い面）

元立ち	掛かり手
双方左足より歩み足にて三步前進して一足一槍の間合に接する	
左足を一步踏み出しながら後手を繰り出してメンの掛け声とともに正面を突く	
	体を後に反らしてから元立ちの槍を右下に払い落とし元立ちの構えを崩し後手を繰り出してメンの掛け声とともに正面を突く
	右足より送り足で一步後退して残心
構えを戻す	さらに数歩後退して一足一槍の間合いになる
構えを解き、双方左足から歩み足にて小さく数歩後退して立合の間合に戻る	

基本4 撥ね上げ技（胴撥ね上げ胴）

元立ち	掛かり手
双方左足より歩み足にて三步前進して一足一槍の間合に接する	
左足を一步踏み出しながら後手を繰り出してドウの掛け声とともに裏胴を突く	
	体をやや左に開いてから元立ちの槍を右上に撥ね上げドウの掛け声とともに前胴を突く
	右足より送り足で一步後退して残心
構えを戻す	さらに数歩後退して一足一槍の間合いになる
構えを解き、双方左足から歩み足にて小さく数歩後退して立合の間合に戻る	

基本5 打ち落とし技（胴打ち落とし面）

元立ち	掛かり手
双方左足より歩み足にて三步前進して一足一槍の間合に接する	
左足を一步踏み出しながら後手を繰り出してドウの掛け声とともに前胴を突く	
	右足からやや左斜め後ろにさばくと同時に元立ちの槍を右下に打ち落としメンの掛け声とともに正面を突く
	右足より送り足で一步後退して残心
構えを戻す	さらに数歩後退して一足一槍の間合いになる
構えを解き、双方左足から歩み足にて小さく数歩後退して立合の間合に戻る	

基本6 抜き技（面抜き胴）

元立ち	掛かり手
双方左足より歩み足にて三步前進して一足一槍の間合に接する	
左足を一步踏み出しながら後手を繰り出してメンの掛け声とともに正面を突く	
	右足を右に出し左足を右足に引きつけ、直ちに左足を一步踏み出しながら後手を繰り出してドウの掛け声とともに裏胴を突く
	右足より送り足で一步後退して残心
構えを戻す	さらに数歩後退して一足一槍の間合いになる
構えを解き、双方左足から歩み足にて小さく数歩後退して立合の間合に戻る	

基本7 出ばな技（出ばな小手）

元立ち	掛かり手
双方左足より歩み足にて三步前進して一足一槍の間合に接する	
やや左足を前に出しながら突きこもうとして槍先を上げる	
	元立ちの起こり頭を捉え左足を一步踏み出しながら小技ですばやくコテの掛け声とともに鋭く左小手を打つ
	右足より送り足で一步後退して残心
構えを戻す	さらに数歩後退して一足一槍の間合いになる
構えを解き、双方左足から歩み足にて小さく数歩後退して立合の間合に戻る	

基本 8 すりこみ技（面すりこみ小手）

元立ち	掛かり手
双方左足より歩み足にて三步前進して一足一槍の間合に接する	
やや高めの中段の構えになる	元立ちの動作に合わせてやや高めの中段の構えになる
左足を一步踏み出しながら後手を繰り出してメンの掛け声とともに正面を突く	
	左足から一步前進しつつ表鐙ですりこんでコテの掛け声とともに小手を打つ
	右足より送り足で一步後退して残心
構えを戻す	さらに数歩後退して一足一槍の間合いになる
構えを解き、双方左足から歩み足にて小さく数歩後退して立合の間合に戻る	

基本 9 回し技（回して面）

元立ち	掛かり手
双方左足より歩み足にて三步前進して一足一槍の間合に接する	
槍先をやや左に開き機会を与える	中段の構えにしておく
	右手を左手側に通わせながら左手を首あたりの高さにして前に出す
	左手を右回りに途中まで回してから左手の上に右手で素槍を持ち、左手の甲で素槍を支えてすぐに左手で持ちかえ、右手を素槍から離し、以降繰り返す
	右足より送り足で一步後退して残心
構えを戻す	さらに数歩後退して一足一槍の間合いになる
構えを解き、双方左足から歩み足にて小さく数歩後退して立合の間合に戻る	

日本槍道形

1. 構え方

- (1) 中段の構え
- (2) 上段の構え (上段・大上段)
- (3) 下段の構え
- (4) 脇構え

2. 体の運用

- (1) 前進後退
- (2) 左開右開

3. 扱きの技法

- (1) 扱き
- (2) 扱き前進
- (3) 扱き後退

4. 打突 (単一技)

- (1) 面の突き方
- (2) 左面の突き方
- (3) 右面の突き方
- (4) 小手の打ち方
- (5) 胴の突き方
- (6) 喉の突き方

5. 連続技

- (1) 連続面
- (2) 連続左右面
- (3) 小手面
- (4) 小手胴

6. 突き返し

面、右面、左面、右面、左面、右面、左面、右面、左面、右面、面

攻めは送り足

受けは歩み足

7. 突返（防具ありの場合）

面、右面、左面、右面、左面、右面、左面、右面、左面、右面、面

攻めは送り足

受けは歩み足

8. 素振り

（1）前進面

（2）前進左右面

（3）前進後退面

（4）前進後退左右面

（5）左開右開面

（6）左開右開左右面

（7）前進後退左開右開面

（8）前進後退左開右開左右面

（9）跳躍面

（10）跳躍左右面

9. 掛稽古

（1）打方と仕方にわかれて稽古する。

（2）相手の欠点をみつけて大きく突く。

10. 互角掛稽古

力量の同じ者同士が突き合う。

11. 地稽古

日本槍道形

素槍の形

一本目

二本目

三本目

四本目

五本目

六本目

七本目

八本目

九本目

十本目

十一本目

鎌槍の形

一本目

二本目

三本目

四本目

五本目

六本目

七本目

八本目

日本槍道形

掛声	
打槍	仕槍
①「ヤー」の掛声とする。	①「エイ」の掛声とする。

槍
①練習には木槍を用いる。 ②正式には槍先にタンポなしで刃形のものを用いる。 ③素槍約 230 センチメートル、鎌槍約 225 センチメートル。重さ、太さは素槍、鎌槍、特に指定無し。

素槍の形 十一本

一本目

打槍（下段）	仕槍（下段）
①下段に構える。	①打槍の動作に合わせて（以下同様なので略）下段に構える。
②前足から三步で一足一槍の間合に進む。（以下同様なので略）	
③間合に接したとき、機を見て左足から踏み出し、「ヤー」の掛声で仕槍の前面を突く。	③このとき、体を後に反らして打槍の槍先を避け、打槍の槍を右に払い落として、「エイ」の掛声で打槍の前胴を突く。
④互いにやや高めの中段にして槍先を交差させる。（以下同様なので略）	
⑤打槍は槍を持つ後手を前へ通わせ、仕槍も打槍の動作に合わせて槍を持つ後手を前へ通わせる。（以下同様なので略）	
⑥打槍は槍を持つ前手を緩め、後手で槍を引きながら送り足で一步ひく。 仕槍も打槍の動作に合わせて槍を持つ前手を緩め、後手で槍を引きながら送り足で一步ひく。（以下同様なので略）	
⑦構えを解き、左足から歩み足でひき、元の位置に帰る。（以下同様なので略）	

二本目

打槍（中段）	仕槍（中段）
①相中段となり、間合に進む。	
②間合に接したとき、機を見て左足から踏み出し、槍先を上方にもっていく。	②仕槍も打槍の動作に合わせて左足から踏み出し、槍先を上方にもっていく。
③「ヤー」の掛声で槍先を下方にもっていく。	③「エイ」の掛声で槍先を下方にもっていく。
④「ヤー」の掛声で槍先を上方に持っていく。	④「エイ」の掛声で槍先を上方にもっていく。
⑤中段になりながら、歩み足で四歩ひく。	⑤打槍の動作に合わせて中段になりながら歩み足で四歩進む。
⑥体を左に開き、一瞬止まる。	⑥打槍の動作に合わせて体を左に開き、一瞬止まる。
⑦「ヤー」の掛声で仕槍の裏胴を突く。	⑦左手を返して打槍の槍を撥ね上げ、「エイ」の掛声で打槍の前胴を突く。
⑧相中段になりながら左足から槍を合わせる為の位置に戻る。	
⑨元の位置に帰る。	

三本目

打槍（中段）	仕槍（中段）
①相中段となり、間合に進む。	
②間合に接したとき、機を見て左足から踏み出し、「ヤー」の掛声で仕槍の前胴を突く。	②「エイ」の掛声で打槍の槍を打ち落とす。
③「ヤー」の掛声で仕槍の裏胴を突く。	③「エイ」の掛声で打槍の槍を打ち落とす。
④中段になりながら、歩み足で四歩ひく。	④打槍の動作に合わせて中段のままで歩み足で四歩進む。
⑤「ヤー」の掛声で仕槍の裏面を突く。	⑤右足から右方に体を捌き、「エイ」の掛声で打槍の裏胴を突く。
⑥相中段になりながら左足から槍を合わせる為の位置に戻る。	
⑦元の位置に帰る。	

四本目

打槍（下段）	仕槍（下段）
①相下段に構え、間合に進む。	
②「ヤー」の掛声で仕槍の槍を右に凌ぐ。	②間合に接したとき、機を見て左足から踏み出し、「エイ」の掛声で牽制気味に打槍の前面を突く。
③そのまま止まる。	③送り足でひきながら中段に構える。
④「ヤー」の掛声で仕槍の槍を左に凌ぐ。	④「エイ」の掛声で牽制気味に打槍の裏面を突く。
⑤そのまま止まる。	⑤送り足でひきながら中段に構える。
⑥「ヤー」の掛声で仕槍の槍を右に凌ぐ。	⑥「エイ」の掛声で牽制気味に打槍の股を突く。
⑦仕槍を追うように中段になりながら歩み足で二歩進む。	⑦中段になりながら歩み足で二歩ひく。
⑧「ヤー」の掛声で仕槍の裏胴を突く。	⑧左手を返して打槍の槍を撥ね上げ、「エイ」の掛声で打槍の前胴を突く。
⑨相中段になりながら左足から槍を合わせる為の位置に戻る。	
⑩元の位置に帰る。	

五本目

打槍（上段）	仕槍（上段）
①相上段に構え、間合に進む。	
②「ヤー」の掛声で仕槍の槍を右に凌ぐ。	②間合に接したとき、機を見て左足から踏み出し、「エイ」の掛声で牽制気味に打槍の前面を突く。
③そのまま止まる。	③送り足でひきながら中段に構える。
④「ヤー」の掛声で仕槍の槍を左に凌ぐ。	④「エイ」の掛声で牽制気味に打槍の裏面を突く。
⑤そのまま止まる。	⑤送り足でひきながら中段に構える。
⑥「ヤー」の掛声で仕槍の槍を右に凌ぐ。	⑥「エイ」の掛声で牽制気味に打槍の股を突く。
⑦仕槍を追うように中段になりながら歩み足で二歩進む。	⑦中段になりながら歩み足で二歩ひく。
⑧「ヤー」の掛声で仕槍の前胴を突く。	⑧打槍の槍を打ち落とし、「エイ」の掛声で打槍の前胴を突く。
⑨相中段になりながら左足から槍を合わせる為の位置に戻る。	
⑩元の位置に戻る。	

六本目

打槍（下段）	仕槍（上段）
①下段に構える。	①上段に構える。
②間合に進む。	
③このとき、体を後に反らして仕槍の槍先を避ける。	③間合に接したとき、機を見て左足から踏み出し、「エイ」の掛声で牽制気味に打槍の前面を突く。
④右足から右方に体を捌きながら、仕槍の槍を右に払い落とす。	④右足から右後方に体を捌きながら、打槍の槍の下を抜け、槍を床に対して垂直に上げる。
⑤「ヤー」の掛声で仕槍の裏胴を突く。	⑤打槍の槍を打ち落とし、「エイ」の掛声で打槍の裏胴を突く。
⑥相中段になりながら左足から槍を合わせる為の位置に戻る。	
⑦元の位置に戻る。	

七本目

打槍（下段）	仕槍（中段）
①下段に構える。	①中段に構える。
②間合に進む。	
③このとき、体を後に反らして仕槍の槍先を避ける。	③間合に接したとき、機を見て左足から踏み出し、「エイ」の掛声で牽制気味に打槍の前面を突く。
④右足から右方に体を捌きながら、仕槍の槍を右に払い落とす。	④右足から右後方に体を捌きながら、打槍の槍の下を抜け、槍を床に対して垂直に上げる。
⑤「ヤー」の掛声で仕槍の裏胴を突く。槍を回してから突いても良い。	⑤打槍の槍を打ち落とし、「エイ」の掛声で中段に構えて止まる。
⑥相中段になりながら左足から槍を合わせる為の位置に戻る。	
⑦元の位置に帰る。	

八本目

打槍（下段）	仕槍（下段）
①相下段に構え、間合に進む。	
②このとき、体を後に反らして仕槍の槍先を避ける。	②間合に接したとき、機を見て左足から踏み出し、「エイ」の掛声で牽制気味に打槍の前面を突く。
③仕槍の槍を右に払い落とす。	③右足から右後方に体を捌きながら、打槍の槍の下を抜け、打槍の裏胴を突く。
④相中段になりながら左足から槍を合わせる為の位置に戻る。	
⑤元の位置に戻る。	

九本目

打槍（下段）	仕槍（上段）
①下段に構える。	①上段に構える。
②間合に進む。	
③間合に接したとき、機を見て左足から踏み出し、「ヤー」の掛声で仕槍の裏胴を突く。	③「エイ」の掛声で打槍の槍を打ち落とし、上段に構える。
④仕槍の槍を左に払い落とす。	④右足から左後方に体を捌きながら、打槍の槍の下を抜け、打槍の前胴を突く。
⑤相中段になりながら左足から槍を合わせる為の位置に戻る。	
⑥元の位置に帰る。	

十本目

打槍（上段）	仕槍（上段）
①相上段に構える。	
②槍を左回りに最初は小さく、徐々に大きく廻しながら、前足から三歩で一足一槍の間合に進む。	②前足から三歩で一足一槍の間合に進む。
③間合に接したとき、機を見て左足から踏み出し、「ヤー」の掛声で仕槍の裏面を突く。	③「エイ」の掛声で打槍の槍を左に凌ぐ。
④このとき、仕槍の槍により半回転され、歩み足で一歩ひく。	④歩み足で一歩前へ進みながら槍を持つ右手を上げて半回転して、打槍の槍を抑える。
⑤中段になりながら歩み足でもう一歩ひく。	⑤中段になりながら歩み足でもう一歩進む。
⑥「ヤー」の掛声で仕槍の前面を突く。	⑥打槍の槍を右に払い落として、「エイ」の掛声で打槍の前胴を突く。
⑦相中段になりながら左足から槍を合わせる為の位置に戻る。	
⑧元の位置に帰る。	

十一本目

打槍（脇構え）	仕槍（大上段）
①脇構えになる。	①大上段に構える。
②間合に進む。	
③間合に接したとき、機を見て脇構えから「ヤー」の掛声で勢いよく仕槍の裏胴を薙ぎ払う。	③送り足でひいて左足を右足につけて、大上段の構えから「エイ」の掛声で打槍の裏胴を突く。
④中段に構えてから歩み足で四歩ひく。	④中段のまま歩み足で四歩進む。
⑤「ヤー」の掛声で仕槍の前面を突く。	⑤「エイ」の掛声で打槍の槍を右に凌ぎ、踏み変え足をしながら柄を返して打槍の槍を払い落とす。そして、石突で打槍の咽喉を突く。
⑥相中段になりながら左足から槍を合わせる為の位置に戻る。	
⑦元の位置に帰る。	
⑧十一本目の場合は、いったん素槍の形が終わるので、立礼する。	

鎌槍の形 八本（打槍…素槍、仕槍…鎌槍）

一本目

打槍（中段）	仕槍（中段）
①中段に構える。	①中段に構える。
②間合に進む。	
③間合に接したとき、機を見て左足から踏み出し、「ヤー」の掛声で仕槍の裏面を突く。	③「エイ」の掛声で打槍の槍を冠に受け、巻き落とす。
④「ヤー」の掛声で仕槍の股を突く。	④「エイ」の掛声で打槍の槍を右に凌ぐ。
⑤中段になりながら歩み足で二歩ひく。	⑤打槍の動作に合わせて中段になりながら歩み足で二歩進む。
⑥「ヤー」の掛声で仕槍の前面を突く。	⑥「エイ」の掛声で打槍の槍を引き落とし、「エイ」の掛声で打槍の前胴を突く。
⑦互いに相中段になる。このとき、鎌槍の槍の部分を素槍の上に被せる。（以下同様なので略）	
⑧打槍は槍を持つ後手を前へ通わせ、仕槍も打槍の動作に合わせて槍を持つ後手を前へ通わせる。（以下同様なので略）	
⑨打槍は槍を持つ前手を緩め、後手で槍を引きながら送り足で一步ひく。 仕槍も打槍の動作に合わせて槍を持つ前手を緩め、後手で槍を引きながら送り足で一步ひく。（以下同様なので略）	
⑩構えを解き、左足から歩み足でひき、元の位置に帰る。（以下同様なので略）	

二本目

打槍（上段）	仕槍（上段）
①相上段となり、間合に進む。	
②間合に接したとき、機を見て左足から踏み出し、「ヤー」の掛声で仕槍の裏面を突く。	②「エイ」の掛声で打槍の槍を左に凌ぐ。
③右廻りに大きく円を描くように廻され槍先が上にきたところで引き落とされる。	③左廻りに大きく円を描くように廻して槍先が上にきたところで「エイ」の掛声で引き落とし、「エイ」の掛声で打槍の裏胴を突く。
④相中段になりながら左足から槍を合わせる為の位置に戻る。	
⑤元の位置に帰る。	

三本目

打槍（下段）	仕槍（下段）
①相下段となり、間合に進む。	
②間合に接したとき、機を見て左足から踏み出し、「ヤー」の掛声で仕槍の裏面を突く。	②「エイ」の掛声で打槍の槍を冠に受ける。
③仕槍の槍を抑えられ、中段になりながら歩み足で二歩ひく。	③打槍の槍を抑えながら中段になりながら歩み足で二歩進む。
④体を左に開き、一瞬止まる。	④打槍の動作に合わせて体を左に開き、一瞬止まる。
⑤「ヤー」の掛声で仕槍の裏胴を突く。	⑤左手を返して打槍の槍を撥ね上げ、「エイ」の掛声で打槍の前胴を突き、右鎌を打槍の手元に掛け引く。
⑥打槍は槍を持つ後手を前へ通わせ、仕槍も打槍の動作に合わせて槍を持つ後手を前へ通わせる。（以下同様なので略）	
⑦打槍は槍を持つ前手を緩め、後手で槍を引きながら送り足で一步ひく。 仕槍も打槍の動作に合わせて槍を持つ前手を緩め、後手で槍を引きながら送り足で一步ひく。（以下同様なので略）	
⑧元の位置に帰る。	

四本目

打槍（下段）	仕槍（上段）
①下段に構える。	①上段に構える。
②間合に進む。	
③間合に接したとき、機を見て左足から踏み出し、「ヤー」の掛声で仕槍の裏面を突く。	③「エイ」の掛声で打槍の槍を左に凌ぐ。
④このとき、仕槍の槍により半回転され、歩み足で一步ひく。	④歩み足で一步前へ進みながら槍を持つ右手を上げて半回転して、打槍の槍を抑える。
⑤中段になりながら歩み足でもう一步ひく。	⑤中段になりながら歩み足でもう一步進む。
⑥「ヤー」の掛声で仕槍の前面を突く。	⑥打槍の動作に合わせて、「エイ」の掛声で打槍の手元に擦り込む。
⑦互いに槍を引きながら送り足で一步ひく。	
⑧元の位置に帰る。	

五本目

打槍（下段）	仕槍（上段）
①下段に構える。	①上段に構える。
②間合に進む。	
③間合に接したとき、機を見て左足から踏み出し、「ヤー」の掛声で仕槍の前面を突く。	③「エイ」の掛声で打槍の槍を引き落とす。
④「ヤー」の掛声で仕槍の股を突く。	④「エイ」の掛声で打槍の槍を右に凌ぐ。
⑤中段になりながら歩み足で二歩ひく。	⑤打槍の動作に合わせて中段になりながら歩み足で二歩進む。
⑥「ヤー」の掛声で仕槍の裏胴を突く。	⑥左手を返して打槍の槍を掬い上げて引き落とす。そして、「エイ」の掛声で打槍の前胴を突く。
⑦相中段になりながら左足から槍を合わせる為の位置に戻る。	
⑧元の位置に帰る。	

六本目

打槍（下段）	仕槍（下段）
①相下段となり、間合に進む。	
②間合に接したとき、機を見て左足から踏み出し、「ヤー」の掛声で仕槍の前面を突く。	②「エイ」の掛声で打槍の槍を引き落とす。
③「ヤー」の掛声で仕槍の股を突く。	③「エイ」の掛声で打槍の槍を右に凌ぐ。
④中段になりながら歩み足で二歩ひく。	④打槍の動作に合わせて中段になりながら歩み足で二歩進む。
⑤「ヤー」の掛声で仕槍の前面を突く。	⑤「エイ」の掛声で打槍の槍を引き落とし、「エイ」の掛声で打槍の前胴を突く。
⑥相中段になりながら左足から槍を合わせる為の位置に戻る。	
⑦元の位置に帰る。	

七本目

打槍（下段）	仕槍（下段）
①相下段となり、間合に進む。	
②間合に接したとき、機を見て左足から踏み出し、「ヤー」の掛声で仕槍の裏面を突く。	②「エイ」の掛声で打槍の槍を冠に受け、巻き落とす。
③「ヤー」の掛声で仕槍の股を突く。	③「エイ」の掛声で打槍の槍を右に凌ぐ。
④中段になりながら歩み足で二歩ひく。	④打槍の動作に合わせて中段になりながら歩み足で二歩進む。
⑤「ヤー」の掛声で仕槍の裏面を突く。	⑤「エイ」の掛声で打槍の槍を冠に受け、巻き返して、「エイ」の掛声で打槍の手元に擦り込む。
⑥互いに槍を引きながら送り足で一歩ひく。	
⑦元の位置に帰る。	

八本目

打槍（下段）	仕槍（下段）
①相下段となり、間合に進む。	
②このとき、身体を後に反らして仕槍の槍先を避ける。	②間合に接したとき、機を見て左足から踏み出し、「エイ」の掛声で牽制気味に打槍の前面を突く。
③右足から右方に体を捌きながら、仕槍の槍を右に払い落とす。	③右足から右後方に体を捌きながら、打槍の槍の下を抜け、槍を床に対して垂直に上げる。
④「ヤー」の掛声で仕槍の前胴を突く。槍を逆回ししてから突くと良い。	④下段に構えて打槍の槍を逆撥ね上げ、打槍の槍に左鎌をかける。そして、「エイ」の掛声で打槍の手元に擦り込む。
⑤互いに槍を引きながら送り足で一步ひく。	
⑥元の位置に帰る。	
⑦相互の礼の後、上座への礼をして終わる。	